

県民の森の植物 68 アカシデ (カバノキ科クマシデ属)

「森の大橋」から望む松川溪谷の紅葉の主要な樹種のひとつ。紅葉の時期は長く、8月頃から部分的に色付きはじめ、11月上旬まで楽しめます。黄、赤、橙と様々な色合いに色付き、日々変化していく様は、非常に美しいです。

名の由来は、冬芽や花、紅葉が赤みを帯びる傾向が強く、長く垂れ下がった雄花の様子を神社にあるしめ縄の「紙垂」に見立てたことから。花は、遠くから見ると赤い霞のように見えて情緒があります。

秋に熟す果実もまた「紙垂」に似ており、小さな種に大きな苞がついていて、苞は種を風に乗せて遠くまで運ぶ役割を担っています。若い苞は緑色、秋になって茶色になり乾燥して軽くなったらスタンバイです。

整った樹形の木で、枝ぶりも美しいので、庭木や公園樹として植栽されたり、盆栽として使われたりしています。冬に出会った霧氷で凍りついたアカシデの枝は、まるで精巧なガラス細工のような自然の芸術でした。



アカシデの花 1/5/7



雌花 5/1

雄花 4/30



アカシデの新緑 5/28



紅葉 10/16



紅葉 10/27



アカシデの果序 11/15



霧氷で凍りついた枝 3/14



冬のアカシデ 3/11

落ち葉 10/26